

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人1

公述意見の要旨	市の考え方
<p>私は、新水戸市民会館計画を白紙に戻し、市民の声を反映させる会、略称市民の会と申しますが、この代表をしております。私たちは、今回の新水戸市民会館計画の白紙撤回を求めるものであります。</p> <p>まず一つは、今回の泉町一丁目北地区に新しい市民会館を建設しようとする計画は、その事業規模や建設場所を含め、市長の一方的な判断を水戸市民に押し付けようとするものです。そのやり方は、主権者であり地方自治の主人公である市民を無視するものと言わざるを得ません。私たち水戸市民は、このような市長の民主主義と地方自治を踏みこむ独断専行に強く抗議するとともに、民主主義と地方自治を水戸市民に取り戻す必要があると考えます。そのためには、あの新国立競技場のように、計画を一旦白紙に戻し、市民の意見を十分に聞き、適正な計画に見直し縮小する必要があります。</p> <p>二つとして、市長が進める4大プロジェクト、新しい市役所 206 億円、ごみ処理施設 400 億円、東町運動公園 103 億円、市民会館 320 億円、合計して約 1 千億円以上になります。この4大プロジェクトは水戸市の一年間の一般会計予算に匹敵する巨大な金額です。この4大プロジェクト全体に問題点が多々あり、全体としてきちんと見直し、縮減すべきであると私たちは考えております。とりわけ、今回の新しい新市民会館計画は、2014 年から実施をされております水戸市第6次総合計画で当初計画が打ち出されたわけです。そこで御承知のように、68 億円、建物が 46 億円、土地代として 22 億円、そして古い市民会館程度の大きさがあるものを造ると想定されておりました。この合計 68 億円という当初の計画が、急に高橋市長の一方的な突然の判断でその</p>	<p>新市民会館につきましては、水戸芸術館との相乗効果による、芸術文化の拠点として、『みと』の魅力を発信するとともに、都市中枢機能の集積による、コンパクトシティの考え方にも合致し、飲食店、商業施設等との連携が図られ、偕楽園や弘道館等の観光資源への回遊性に優れており、中心市街地の魅力や活力を高めていくことで、「行ってみたい、住んでみたい」と思われるようなまちを目指すものとして、泉町1丁目北地区に整備するという判断をしたものです。</p> <p>また、平成25年12月定例会において、泉町1丁目北地区への立地判断を表明した後、市議会に新市民会館に関する特別委員会が設置され、十分な御審議をいただき、新市民会館の基本的な考え方、施設計画、敷地計画、概算事業費等を含めた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」を平成27年3月に策定したところであります。極めて民主的に議論を重ねた結果と考えております。</p> <p>あらためて、その経過を述べますが、第6次総合計画における市民会館整備事業費につきましては、仮に、旧市民会館の規模と同程度の施設を再築した場合における事業費として約68億円を見込んだものであります。</p> <p>平成26年2月3日の水戸市第6次総合計画基本構想審査特別委員会において、「新市民会館につきましては、議会において設置されました特別委員会の中の審議を踏まえまして、具体的な内容について十分整理をしてまいりたい。」と執行部説明をしております。</p> <p>また、平成26年2月19日の新市民会館に関する特別委員会において、「詳細については、基本計画の中で、施設の規模あるいは機能等を検討</p>

なんと4倍以上の320億円、これは27万人あまりの水戸市民一人当たり約12万円、4人家族で48万円の負担になります。しかも、国の補助金はほとんど見込めません。市税や借金で賄うしかありません。こういう膨大な額に、市長の突然の一方的な判断で膨れ上がったわけです。市民の税金の浪費、無駄遣い以外の何物でもありません。今回の計画は、市街地再開発事業、これについてたくさんのお金を計上しておりますが、この手法によって伊勢甚という特定の大資本に数十億円の税金を供与するものであります。一部特定企業と一部政治家との利権政治の産物であるという批判を免れることは出来ません。

市民の血税を食い物にするような計画は、市民の手でストップさせるしかありません。巨額の市債、借金の市民への負担増や、財政赤字の危険、あるいは巨大施設を建設した後の修繕費や維持費の増大など、将来負担等を全く考慮に入れない無謀な計画であると言わざるを得ません。全国の多くの地方都市が、今回の計画のような2,000人収容の大ホールを各地で造っております。その後の維持費や運営に非常に四苦八苦して赤字を積み重ねている。このことは市当局もつかんでいるはずです。このような失敗を繰り返してはなりません。

三つ目として、市長は大規模なコンベンションやイベントのための市民会館を造るといっていますが、これは本末転倒です。そうではなくて、市民にとって使い勝手のいい、利用しやすい、身の丈に合った、市民のための市民会館が求められています。コンベンションやイベント呼び込み型・誘致型の市民会館の建設では、一過性でないまちの活性化や賑わいをもたらすことはできません。そもそも、市当局は2,000人収容の大ホールの基礎的な需要調査も行っておりません。県民文化センター、ご承知の通り1,500名収容の大ホールでございますが、これより大きい2,000名ホールは年に数える回数しか稼働が見込めないのでありましょう。毎年維持費が3倍以上になる、3億円と言われてお

する中で、事業費についても精査をしていきたい。」と説明しております。これらの議論を踏まえて、平成26年3月の第1回水戸市議会定例会で「水戸市第6次総合計画」が決定されたものであり、その後、約1年間、延べ12回にわたって開催された特別委員会において施設の規模、機能等を御審議いただき、2,000席の大ホールをはじめ、3,000人規模のコンベンションの開催が可能となる十分な広さと数を備えた展示室や会議室等を整備することを決定いたしました。

また、これまででも、各種団体へのヒアリング及び市民ワークショップを2年間で、あわせて28回実施したほか、市民アンケート、意見公募手続きなど、多様な手法によって市民の声を聴いてまいりました。今後も、より多くの市民参加により事業を進めてまいります。

次に、新市民会館の規模、機能につきましては、吹奏楽団体、合唱団体等からは、従来の公立施設では、楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、コンクールなどの大会を開催しにくいという御意見をいただいております。あわせて、市民アンケートでは、著名なアーティストの公演、全国ツアーが開催できる施設に対する要望も多くあることから、大規模施設だからこそできる各種イベントへの市民需要も高いと考えております。

新市民会館整備に関する経費につきましては、施設建築物の設計の進捗により、施設規模・機能等に応じた施設利用料の見積りが可能となることから、同規模施設の事業収入、職員の人件費、光熱水費、施設設備管理費等を参考に、今後、収支のバランスを意識した維持管理費（ランニングコスト）について検討し、市民サービスの低下を招くことがないよう、そして、将来世代に過大な負担を先送りすることがないよう、努めてまいります。

次に、利権政治の産物ではないかというご意見につきましては、補償金は、法律や制度に基づき、土地や建物の対価として客観的に評価し、

ります。この負担も大変でございます。住民が気軽に施設を利用でき
てこそ、まちの活性化や賑わいに寄与することができるのです。また、
それを利用するアーティストから見ても 2,000 名の大ホールは使いづ
らいというふうに指摘されております。市民が使いやすい、身の丈に
合った市民会館を造るためには市民参加が不可欠であります。今回計
画決定のプロセスを見ますと、この市民参加ということがないがしろ
にされていると言わざるを得ません。今からでも遅くはありません。
直ちに、市当局は市民の意見や要望を十分聞き、市民参加の施設づく
り、まちづくりを目指すべきであります。また、私たちは、人口減少
時代、少子高齢化時代に見合った施設づくりを目指さなければなりませ
ん。巨大箱物を造り、金食い虫の無用の長物、お荷物としてはなりませ
ん。バブル期の大ホール主義の時代は終わったのです。今回の計画は時代
錯誤であると言わざるを得ません。市民が使いやすい場所に
造るということも大事です。このことに関連して過大な規模にもかかわ
らず、専用駐車場がわずか 300 台だという今回の計画は、利用者は
駐車場を探して右往左往して渋滞を招くことは必定であります。その
意味で、私たちが提案をしております旧県庁隣接地での建築は、建設
費も 60～70 億円、コンパクトな使いやすいものであります。6 水総で
決めていた規模であります。有力な一つの具体案だと考えます。これ
だと、現行の計画よりも 250 億円も巨額の税金を節約できます。市民
が気軽に利用できるようにするためには使用料も安く抑えることも重
要です。

四つ目に、税金や公共料金、物価の値上げ、低迷する賃金、年金の
切り下げなど、市民の暮らしは苦しくなる一方でございます。今回の
問題は、私たちの税金の使い方の問題でもあります。市民会館に 320
億円もの巨額のお金をかけるのなら、その財源を暮らしや福祉や教育
の充実にあて、市民生活を豊かにするために税金を有効活用して欲し

公平公正に額が算出されるものです。

次に、需要調査につきましては、2,000 席以上の大ホールに係る平成
22 年度の稼働率の全国平均値が 68%であり、同じ条件における関東甲信
越静地区の稼働率の平均値が 70%であります。近隣の県庁所在地で 2,000
席のホールを有する施設がある前橋市及び宇都宮市の平成 26 年度稼働
率については、ベイシア文化ホール（群馬県民会館）が 61%、宇都宮市
文化会館が 73%となっております。これらを踏まえ、新市民会館の稼働
率につきましては、70%を目指してまいりたいと考えております。

また、大手興行主へのアンケート調査では、新市民会館で公演等をぜ
ひ行いたい、条件を整えば行いたいといった前向きな回答が多く寄せら
れ、多くの方に利用していただくためにも、より良い施設の在り方を検
討してまいります。

次に、駐車場へ進入する車両による交通渋滞の懸念につきましては、
当該地周辺での現況交通量の実態調査を踏まえた検証において、健全な
範囲内となることを確認しております。駐車場の整備台数をはじめ、具
体的には交通渋滞等の影響がないよう道路管理者、交通管理者と十分に
協議・調整をしながら検討してまいります。あわせて、公共交通の利用
促進や案内板等による適切な交通誘導等のソフト対策も検討してまいり
ます。

新市民会館は、多くの人が集い、交流するために、全国に向けたコン
ベンション、著名なアーティストの公演やイベント等を積極的に誘致す
るとともに、芸術文化を育み、新たな文化を創造するために、市民が楽
しく、参加したくなる事業の実施や、誰でも気軽に訪れることができる
雰囲気をつくり、市民による自主企画へのサポートやワークショップ、
講座等を通じた人材育成や市民参加を促進したいと考えております。現
在、各種団体へのヒアリングをはじめ、市民アンケート、市民ワークシ
ョップ等を実施するなど、市民の意見を聴きながら、「水戸市新たな市民

いと圧倒的多数の市民が願っております。計画を身の丈に合ったものに縮減し、無駄遣いを止め、浮いた財源を市民の福祉の増進のために使うべきです。市長のやり方もひどいですが、市議会もその本分を忘れていと言わなければなりません。多数の議員は市長の言うことを追認するだけで、行政のチェック機能を放棄していると言われても仕方ありません。市民の代表として税金の無駄遣いを厳正にチェックし、市民の利益と福祉の増進のためにしっかりとその役目を果たしてほしいと思います。

以上述べてきましたように、今回の問題は水戸市民一人ひとりの民主主義と自治と税金の使い方をめぐる問題でございます。その意味で、水戸市民一人ひとりの思想信条や政治的立場の違いを超えた水戸市民全体の問題である。そのことを十分に踏まえて、私たちは水戸市民の皆様に広く訴えていきたいと考えています。そして市長が白紙撤回しない場合は、計画の賛否を問う住民投票を目指したいと考えております。

会館管理運営基本計画（素案）」の策定を進めております。特に、市民ワークショップでは、高校生から70代まで幅広い世代の男女により、事業計画や利用規則等の目指すべき方向性を検討いたしました。今後は、観光コンベンション、スポーツコンベンションを積極的かつ効果的に誘致する組織体制を確立するとともに、市民や、市民団体が、今までの市民会館以上に利用し、活動しやすいルールを市民との協働でつくるなど、運営に関する市民の参加についても検討してまいります。また、市民会館の利活用を考える検討会を設置し、市民や有識者を交え十分に検討してまいります。

加えて、大規模なコンベンションやイベントを一過性のものとしなような事業の運営や、周辺商業施設、宿泊施設等との連携が重要であると考えております。全国に向けてコンベンションの誘致に一層力を入れるとともに、多くの人が集い、交流することによる新たな文化を創造し、その文化が経済や産業の発展につながる成熟したまちの実現を目指してまいります。

さらに、地域コミュニティ団体や水戸商工会議所などから事業の早期完成に向けた御要望もいただいております。新市民会館の整備は芸術文化の拠点形成を図り、市民にとって心の豊かさや優良な都市空間の構築を実現するものであり、本市のまちづくりにとって極めて重要な事業であると考えております。

新市民会館整備につきましては、本市の4つの大型プロジェクトとして事業費を明らかにしたうえで、これまでも市の考え方を市民の皆様に示してきました。これらのプロジェクトの完遂は、市民に対する公約であります。市としましては、これらを着実に実現しなければならないという市民からの付託を重く受け止めており、新市民会館の早期の整備を着実に進めてまいります。

■公述人2

公述意見の要旨	市の考え方
<p>私は、大型公共事業を見直して、福祉・暮らし・教育を大切にする市政をと訴えて参りました。</p> <p>この立場から、泉町1丁目の再開発事業は同意できません。中心の新水戸市民会館は計画を白紙に戻して、市民の声を反映させて、場所も規模も財政負担も見直すことを強く求めるものです。水戸市の年間予算の約3分の1を投入することは、市の財政と市民生活を圧迫してしまいます。市民会館整備費は192億円で、国庫補助は12億円、事業費の2%です。再開発事業費は103億円で、国庫補助は54億円とされています。つまり、総事業費の2割しか補助がなく、259億円の莫大な市の負担は、借金を増やし、市民生活を直撃することになってしまいます。これらのことについて、市民の理解は得られるのでしょうか。財政が苦しいとの理由で職員を減らし、行政サービスを低下させるごまかしの行政改革こそ、やめるべきです。いま直近の問題として、一つに、5つの市立図書館を民間委託してしまうことです。文化都市水戸市に相応しく、地区図書館は充実させなければなりません。図書館司書の専門家を中心に、子どもから高齢者まで学び憩うことのできる市の拠点として充実させることです。民間委託で1億円の経費削減を強化していますが、専門家を追い出してしまうことになってしまいます。</p> <p>二つ目は、学校給食調理の民間委託です。水戸市の自校方式は、地産地消・食育教育に貢献してきました。調理員の人件費削減がされて、豊かな給食の保障が崩れようとしているのです。</p> <p>三つ目は、市の社会福祉協議会と市の社会福祉事業団の統合です。障害者や高齢者事業を削減して、福祉専門職員の養成を妨げてしまいます。老人福祉センターのお風呂の有料化や2ヶ所のデイサービス事</p>	<p>新市民会館につきましては、水戸芸術館との相乗効果による、芸術文化の拠点として、『みと』の魅力を発信するとともに、都市中枢機能の集積による、コンパクトシティの考え方にも合致し、飲食店、商業施設等との連携が図られ、偕楽園や弘道館等の観光資源への回遊性に優れており、中心市街地の魅力や活力を高めていくことで、「行ってみたい、住んでみたい」と思われるようなまちを目指すものとして、泉町1丁目北地区に整備するという判断をしたものです。</p> <p>また、平成25年12月定例会において、泉町1丁目北地区への立地判断を表明した後、市議会に新市民会館に関する特別委員会が設置され、十分な御審議をいただき、新市民会館の基本的な考え方、施設計画、敷地計画、概算事業費等を含めた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」を平成27年3月に策定したところであります。極めて民主的に議論を重ねた結果と考えております。</p> <p>あらためて、その経過を述べますが、第6次総合計画における市民会館整備事業費につきましては、仮に、旧市民会館の規模と同程度の施設を再築した場合における事業費として約68億円を見込んだものであります。</p> <p>平成26年2月3日の水戸市第6次総合計画基本構想審査特別委員会において、「新市民会館につきましては、議会において設置されました特別委員会の中の審議を踏まえまして、具体的な内容について十分整理をしてまいりたい。」と執行部説明をしております。</p> <p>また、平成26年2月19日の新市民会館に関する特別委員会において、「詳細については、基本計画の中で、施設の規模あるいは機能等を検討する中で、事業費についても精査をしていきたい。」と説明しております。</p>

業の廃止で、高齢者のささやかな楽しみを奪ってしまいました。福祉や教育を削って、住み良い水戸市と言えるのでしょうか。本当の行政改革は巨大な公共事業の見直しであることを私は強く訴えるものです。

さて、市民会館は元々県民文化センターとすみ分けがあり、大ホールは1,000人、各種会議室があり、施設稼働率は6割を超え、全国的にも高い利用率となっております。水戸市第6次総合計画では、68億円の予定でした。これまでの市民会館を想定したものであり、そのことは明らかです。2,000名の大ホールや3,700名のコンベンション施設は、年間の稼働率さえ示されておられません。需要とかけ離れたものとなってしまいます。中心市街地活性化のために必要だと説明しております。しかし、水戸市は県庁移転、内原イオン等の郊外の大型店進出によって、中心市街地は変節してしまいました。歴史と文化を活かした地元商店街の活性化を原点にして追求しなければなりません。芸術館が存在しており、運営を市民に開かれたものに改善することなど、知恵と力を生かすべきです。莫大な借金を作り、再開発事業を強行する理由はどこにあるのでしょうか。私は、特定の企業の利益のために市長と政治家が癒着していると考えます。旧京成デパートの地主は伊勢甚であり、移転補償費などを含めると40億円も伊勢甚に補償されると言われております。巨大な箱モノに群がるのは、超大手ゼネコンと政治家です。市民のための市民会館ではなく、一部企業と政治家のための市民会館建設ではないでしょうか。地方自治体の役割は、地方自治法に住民の福祉の向上と明記されております。福祉や教育を削り、相次ぐ公共料金の値上げ等、地方自治体としての役割が、ますますかけ離れてしまいます。巨大な市民会館、市役所、ごみ処理場、体育館の四つの大型公共事業に、年間事業費は一年間の水戸市の予算とほぼ同じです。一つひとつ見直さなければなりません。あまりにも異

これらの議論を踏まえて、平成26年3月の第1回水戸市議会定例会で「水戸市第6次総合計画」が決定されたものであり、その後、約1年間、延べ12回にわたって開催された特別委員会において施設の規模、機能等を御審議いただき、2,000席の大ホールをはじめ、3,000人規模のコンベンションの開催が可能となる十分な広さと数を備えた展示室や会議室等を整備することを決定いたしました。

また、これまでも、各種団体へのヒアリング及び市民ワークショップを2年間で、あわせて28回実施したほか、市民アンケート、意見公募手続きなど、多様な手法によって市民の声を聴いてまいりました。今後も、より多くの市民参加により事業を進めてまいります。

次に、新市民会館の規模、機能につきましては、吹奏楽団体、合唱団体等からは、従来の公立施設では、楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、コンクールなどの大会を開催しにくいという御意見をいただいております。あわせて、市民アンケートでは、著名なアーティストの公演、全国ツアーが開催できる施設に対する要望も多くあることから、大規模施設だからこそできる各種イベントへの市民需要も高いと考えております。

また、2,000席以上の大ホールに係る平成22年度の稼働率の全国平均値が68%であり、同じ条件における関東甲信越静地区の稼働率の平均値が70%であります。近隣の県庁所在地で2,000席のホールを有する施設がある前橋市及び宇都宮市の平成26年度稼働率については、ベイシア文化ホール（群馬県民会館）が61%、宇都宮市文化会館が73%となっております。これらを踏まえ、新市民会館の稼働率につきましては、70%を目指してまいりたいと考えております。

なお、大手興行主へのアンケート調査では、新市民会館で公演等をぜひ行いたい、条件が整えば行いたいといった前向きな回答が多く寄せられ、多くの方に利用していただくためにも、より良い施設の在り方を検

常な財政投資，あまりにも無策であり，活性化どころかかえって市民と市財政を苦しませることになってしまいます。私は泉町1丁目の再開発事業と市民会館建設の中止を強く求めて意見を述べさせていただきます。

以上でございます。

討してまいります。

次に，民間企業への利益供与ではないかというご意見につきましては，補償金は，法律や制度に基づき，土地や建物の対価として客観的に評価し，公平公正に額が算出されるものです。

新市民会館整備につきましては，本市の4つの大型プロジェクトとして事業費を明らかにしたうえで，これまでも市の考え方を市民の皆様に示してきました。これらのプロジェクトの完遂は，市民に対する公約であります。市としましては，これらを着実に実現しなければならないという市民からの付託を重く受け止めており，新市民会館の早期の整備を着実に進めてまいります。

■公述人3

公述意見の要旨	市の考え方
<p>水戸市の発展のためには旧京成百貨店の地区の都市計画は必要だと感じています。あのままではどうしようもない、水戸市の発展を阻害しているということで、何かうまい都市計画案はないかという風に思っております。もともと、私のところは都市計画の中に入っていないということで歯科診療所を建設したのですが、今回急に市民会館ができるということになって私の家まで取り壊すという話になりました。私は、代々水戸で生まれて3代目なのですが水戸市の発展をぜひ応援したいということで、市の計画ならば出来るだけ応援したいと色々検討して、結局その土地を移らなければならないということになって大変なストレスというか、そういう状況なのです。そういう意味でも、市民の方が本当にいい市民会館ができるのだったら移ってもいいという風に思います。一番の問題は、ちょっと経費がかかりすぎること、前にも地区の説明会でも2,000人は多すぎるのではないかと、色々意見は出ておりました。それと駐車場の話も色々。市の方も色々検討してくれて話はどんどん進んできているのですけれども、私は、原案の建物はちょっと経費がかかりすぎていると。もっと経費がかからないように、全部市民会館ではなくもっと他の施設も取り入れた、最近では市役所と市民会館が一体化したようなものも多いわけですね。</p> <p>確かに2,000人なら北関東か全国でも有名になるかもしれませんがけれども、まあ、どれくらい使われるか。この間、初めて県民文化センターに行ったのですが結構大きくて立派でした。それよりはいいものが出来ると嬉しいのですけれども、やっぱりあの地区に持ってくる最大の理由は芸術館があそこにあるということだと思います。芸術館は</p>	<p>新市民会館の規模、機能につきましては、吹奏楽団体、合唱団体等からは、従来の公立施設では、楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、コンクールなどの大会を開催しにくいという御意見をいただいております。あわせて、市民アンケートでは、著名なアーティストの公演、全国ツアーが開催できる施設に対する要望も多くあることから、大規模施設だからこそできる各種イベントへの市民需要も高いと考えております。需要調査につきましては、2,000席以上の大ホールに係る平成22年度の稼働率の全国平均値が68%であり、同じ条件における関東甲信越静地区の稼働率の平均値が70%であります。近隣の県庁所在地で2,000席のホールを有する施設がある前橋市及び宇都宮市の平成26年度稼働率については、ベイシア文化ホール（群馬県民会館）が61%、宇都宮市文化会館が73%となっております。これらを踏まえ、新市民会館の稼働率につきましては、70%を目指してまいりたいと考えております。</p> <p>また、大手興行主へのアンケート調査では、新市民会館で公演等をぜひ行いたい、条件を整えば行いたいといった前向きな回答が多く寄せられ、多くの方に利用していただくためにも、より良い施設の在り方を検討してまいります。</p> <p>次に、経費がかからないように全部市民会館ではなく他の施設も取り入れ市に還元できるような計画にすべきとのご意見ですが、一般的な市街地再開発事業では都市型住宅やキーテナント、公共公益施設などの機能を導入し事業の採算性を確保するものですが、本地区では芸術文化と出会い創造する拠点形成を図り、人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点の構築を実現するために必要な機能として公共公益施設（新市民会館）や商業施設を計画しております。</p>

非常に評価されています。水戸の代表の一つになっている。建物も結構格好いいし、どこから見ても綺麗だとか東京から来る人も皆褒めるのですよ。

原案にはほとんど緑がない緑地が。半分は緑地にして欲しい。芸術館の間の道路はなくしてあそこを緑地にする。道路は完全に車が入らないようにする。これから人口が減るのを防ぐには子育てしやすいまちにする、そのためには、お母さん方が乳母車を引いて散歩できるような施設が必要ではないか、若い世代が入ってくれないと困ると思うのですね。そういう意味で、是非半分は緑地帯。私のところは贅沢なのですけれども父の代から広い面積の 250 坪くらいの庭があります。紅葉の木なんかあって春に梅の花が咲くと鶯が来る。たくさんの渡り鳥も飛んできます。シロサギも来ます。そういうことで、やっぱり国立競技場もそうですけれども緑が大事だということで、今回もしあそこに造るなら国道側を高くして色んなものを入れてそちらの利益を市の方に向く還元というような計画を立て直してもらえたらいいなと。確かに、客席の大きさなんかはもう一度検討し直す必要はあると思います。できたら学会とか集会をやりたいな、呼んで来たいなと思っているのですよ。つくばに取られてしまっているのですよ、私の学会も。つくばの国際会議場に匹敵するような会館にしたいと思うのですけれども、その辺、よくメリットとデメリットをもう一回原案を検討して、このままの原案でいくなら反対ですよ。私の所には古い井戸があるのでそこには築山とか池があるので自然のものがあって、春になるとニリンソウが咲いたり本当に自分の庭で。私は全部壊してもいいかなと思ったのだけれど、通る人が「綺麗ですね」って、でも市民会館建設で壊しちゃうって話をすると「それはもったいない、ぜひここだけ残るようにした方がいい」と何人からも言われてちょっと考えが変わってきてですね、そういうことでまちの中にもぜひ緑の部分

次に、都市計画原案には緑が少ないのご意見ですが、都市計画原案では、建物の延べ面積を約 21,800㎡、建築面積を約 6,600㎡とし建ぺい率及び容積率がそれぞれ約 80%、約 243%としたもので、都市計画決定においてはこれらの数字が今後の施設建築物基本設計の際の一定の目安となってきますが、あくまでこれは上限値であり原案に添付してある施設建築物に関する図面につきましても参考図であり、都市計画決定以降の基本設計において具体的な設計を検討することになります。ご意見の「広い緑地」や「道路通行止めによる緑地化」に関しましても、本事業の目的である中心市街地の活性化や市民が日常的に憩い・賑わう場として安心かつ安全な都市空間を提供するうえで有効ですので、基本設計を進める中で十分にご意見を聴く機会を設けながら検討していきます。

をつくって。北大では、農場に国道か市道か道路が通ることになったのです。大学と市民が反対してあそこは地下道なのです。上は緑地で大学の中に繋がっていて自由に人が歩ける。だから、ここももし交通渋滞になるようだったら一方通行にして歩道をもっと広げて地下道にするか、完全に遮断して別のところに回ってもらうか、だから東側の道路も途中までにして。自動車が回っていっちゃうので危ないんですね。だから、お母さんが子どもを連れて自由に楽しめる、市民会館に入らない人も楽しめる、そういう風にすれば税金はある程度使ってもいいんじゃないかと思っています。

■公述人 4

公述意見の要旨	市の考え方
<p>新市民会館建設への意見ということで、私の意見を申し上げていただきます。新市民会館の建設に当たり、水戸市の身の丈に合った市民会館の建設を私は要望するものであります。そもそも、新市民会館整備計画は2014年の第6次総合計画の当初予算で、土地と建物を合わせて68億円とされたにもかかわらず、同年12月には土地代抜きで180億円程度、規模となりまして、市街地再開発の中心事業として公表されました。そして本年12月には、水戸市のホームページによりますと、12月10日付で旧京成跡地、現地権者はほぼ伊勢甚ですね、伊勢甚を中心とする泉町1丁目に建設決定となっております。予算額もなんと300億を超えるというものです。</p> <p>水戸市の本年度一般会計歳入が約1,047億円に対しまして、300億を超える税金を投入しての新市民会館建設方針には私としては全く納得がいきません。水戸市では現在建設が始まっております市庁舎の206億円をはじめ、東町運動公園体育館が103億円、ごみ処理施設に400億円とこの法外な4件のこの大型プロジェクトが動き出す構えをみせております。すでにこの4件のプロジェクトだけで一般会計の歳入がオーバーという事態です。これによって水戸市の負債は2,500億円に膨れ上がるときいております。これは27万水戸市民、赤ちゃんからお年寄りまで、一人当たり92万5千円にもものぼる借金を背負わされるという勘定です。市長はこれを一体どのように理解しておられるのでしょうか。つい、最近の広報みとに載った記事ですけども、市民に4億5千万円もの借金を願い出るのに、「笑顔あふれる水戸市民債」と謳ったこの記事は、私が思うに、市民を全くバカにしているというか、ことばのあやで負債を誤魔化すやり方であって、金銭感覚が鈍っている</p>	<p>新市民会館につきましては、水戸芸術館との相乗効果による、芸術文化の拠点として、『みと』の魅力を発信するとともに、都市中枢機能の集積による、コンパクトシティの考え方にも合致し、飲食店、商業施設等との連携が図られ、偕楽園や弘道館等の観光資源への回遊性に優れており、中心市街地の魅力や活力を高めていくことで、「行ってみたい、住んでみたい」と思われるようなまちを目指すものとして、泉町1丁目北地区に整備するという判断をしたものです。</p> <p>また、平成25年12月定例会において、泉町1丁目北地区への立地判断を表明した後、市議会に新市民会館に関する特別委員会が設置され、十分な御審議をいただき、新市民会館の基本的な考え方、施設計画、敷地計画、概算事業費等を含めた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」を平成27年3月に策定したところであります。極めて民主的に議論を重ねた結果と考えております。</p> <p>あらためて、その経過を述べますが、第6次総合計画における市民会館整備事業費につきましては、仮に、旧市民会館の規模と同程度の施設を再築した場合における事業費として約68億円を見込んだものであります。</p> <p>平成26年2月3日の水戸市第6次総合計画基本構想審査特別委員会において、「新市民会館につきましては、議会において設置されました特別委員会の中の審議を踏まえまして、具体的な内容について十分整理をしてまいりたい。」と執行部説明をしております。</p> <p>また、平成26年2月19日の新市民会館に関する特別委員会において、「詳細については、基本計画の中で、施設の規模あるいは機能等を検討する中で、事業費についても精査をしていきたい。」と説明しております。</p>

としか言い様がありません。

また新市民会館は座席数 2,000 名の大ホールのほかに 500 名、300 名の中ホール、その他会議室等を含めると 3,700 名収納可能な県内一大きな施設を計画しています。これも大問題だと思います。既存の県民文化センター大ホールは約 1,500 席ですけれども、「友の会会員」等に送付されてきますスケジュール表を見ましても、駐車場の満車予定の記載は、月平均数回でありまして、満車となってもホールが満席となるとは限りません。ですからなおのこと新市民会館に 2,000 席の大ホールは必要ないと思います。水戸市には幸い県民文化センターがあり、芸術館もあります。3.11 以降、私たち市民は、茨城県総合福祉会館や、青少年会館、水戸国際交流センターなど交流や会議室を持つ施設を利用しながら、芸術文化に触れ交流をしてきました。ですから、私たちが必要としているのは、サークル等が使用許可を申請しても、使用は月に 2 回と限定されて、なかなか使えない市民センターの小会議室規模のものが多数としております、それに従来の収容人数と同程度のホールがあればそれで十分なのです。国際会議の場所は、国や県が考えることではないでしょうか。こんな破天荒な事業に湯水のごとく私たちの税金が使われることは看過できません。誰が考えても、一般家庭ではこんな家計の管理は許されないでしょう。

新市民会館建設にあたり、市は多数の市民からアンケートを取り理解してもらったとっておりますが、アンケート報告に予算については全く触れられておりません。市民会館完成後はどういったジャンルの開催を望むかとか運営方法の要望等に類することのみであって、予算については、ずっと低く見積もられ隠されてきました。これが実態です。

しかも建設地が、現在の多額の維持費を歳出し、周囲の景観を重視している芸術館の隣接地というのは本当に驚きでした。シンボルタワ

これらの議論を踏まえて、平成26年3月の第1回水戸市議会定例会で「水戸市第6次総合計画」が決定されたものであり、その後、約1年間、延べ12回にわたって開催された特別委員会において施設の規模、機能等を御審議いただき、2,000席の大ホールをはじめ、3,000人規模のコンベンションの開催が可能となる十分な広さと数を備えた展示室や会議室等を整備することを決定いたしました。

また、これまでも、各種団体へのヒアリング及び市民ワークショップを2年間で、あわせて28回実施したほか、市民アンケート、意見公募手続きなど、多様な手法によって市民の声を聴いてまいりました。今後も、より多くの市民参加により事業を進めてまいります。

次に、新市民会館の規模、機能につきましては、吹奏楽団体、合唱団体等からは、従来の公立施設では、楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、コンクールなどの大会を開催しにくいという御意見をいただいております。あわせて、市民アンケートでは、著名なアーティストの公演、全国ツアーが開催できる施設に対する要望も多くあることから、大規模施設だからこそできる各種イベントへの市民需要も高いと考えております。

また、需要調査につきましては、2,000席以上の大ホールに係る平成22年度の稼働率の全国平均値が68%であり、同じ条件における関東甲信越静地区の稼働率の平均値が70%であります。近隣の県庁所在地で2,000席のホールを有する施設がある前橋市及び宇都宮市の平成26年度稼働率については、ベイシア文化ホール（群馬県民会館）が61%、宇都宮市文化会館が73%となっております。これらを踏まえ、新市民会館の稼働率につきましては、70%を目指してまいりたいと考えております。

なお、大手興行主へのアンケート調査では、新市民会館で公演等をぜひ行いたい、条件が整えば行いたいといった前向きな回答が多く寄せられ、多くの方に利用していただくためにも、より良い施設の在り方を検

一ですとかですね、緑の芝生、これは育たなくなるのではないのでしょうか。その上に駐車場の保障もないのに無理やり入り込んで、地価の高い泉町再開発事業に強硬にこだわる理由は一体なんなのでしょう。いろいろ風評が飛んでいます、すでに京成との土地交換によって巨額の補助金を収受している伊勢甚が一番の地権者である土地に建設しようとする意図を、私たち市民に納得のいく説明が必要です。

それから、市長は自らオフィシャルWebサイトで 都市づくりの基本理念を「時代がいかかわろうと、水戸に住むすべての市民が安心して暮らし、幸せを感じられるまちをつくるのが到達目標」だと述べておられます。そうであるなら、大型開発によって市民を苦しめるのではなく、到達目標に至るまでそういうことをぜひ実行していただきたいと思います。水戸市民の中で、水戸に住んで幸せ、安心と実感できる人は現在一体何人おられるのでしょうか。それには程遠い、将来が不安と思っている市民が大半だと思います。

それから市民会館より先に完成予定の東町運動公園体育館建設にも、103億円もの税金が投入されるのに、市民には一言も説明がありませんでした。国体のため建設を急ぐならなぜ県がやらないで、水戸市が代行するのでしょうか。しかも多くの子どもたちが、現在利用しているプールをなくさないでほしいという3,700名を超える母親たちの切実な訴えにも全く耳を貸さず、プール建設は切り捨てられました。

今月1日発行の市報の表紙は黄色いイチョウの落ち葉を踏む子どもの写真で飾られ、これですけれども。12月1日号です。ここにですね、大書きで「ボクたちの未来は輝く金色！」と、書かれています。本当に輝く金色になるのでしょうか。私にはとても信じられません。巨額の借金を投じての箱ものづくりは、次世代への負債の積み上げでありまして「輝く金色」ではないと思います。将来維持費すら負担になってくる箱ものに税金を使うのではなくて、子どもたちやお年寄りが、

討してまいります。

新市民会館は、多くの人が集い、交流するために、全国に向けたコンベンション、著名なアーティストの公演やイベント等を積極的に誘致するとともに、芸術文化を育み、新たな文化を創造するために、市民が楽しく、参加したくなる事業の実施や、誰でも気軽に訪れることができる雰囲気をつくり、市民による自主企画へのサポートやワークショップ、講座等を通じた人材育成や市民参加を促進したいと考えております。現在、各種団体へのヒアリングをはじめ、市民アンケート、市民ワークショップ等を実施するなど、市民の意見を聴きながら、「水戸市新たな市民会館管理運営基本計画（素案）」の策定を進めております。特に、市民ワークショップでは、高校生から70代まで幅広い世代の男女により、事業計画や利用規則等の目指すべき方向性を検討いたしました。今後は、観光コンベンション、スポーツコンベンションを積極的かつ効果的に誘致する組織体制を確立するとともに、市民や、市民団体が、今までの市民会館以上に利用し、活動しやすいルールを市民との協働でつくるなど、運営に関する市民の参加についても検討してまいります。また、市民会館の利活用を考える検討会を設置し、市民や有識者を交え十分に検討してまいります。

加えて、大規模なコンベンションやイベントを一過性のものとしなような事業の運営や、周辺商業施設、宿泊施設等との連携が重要であると考えております。全国に向けてコンベンションの誘致に一層力を入れるとともに、多くの人が集い、交流することによる新たな文化を創造し、その文化が経済や産業の発展につながる成熟したまちの実現を目指してまいります。

次に、水戸芸術館につきましては、運営基本理念として「新しい芸術文化を創造する芸術館」を掲げており、「水戸からの芸術文化の発信」を目指し、音楽・演劇・美術の3部門を備えた芸術文化の創造の拠点とし

本当に笑顔で暮らせる教育の分野、福祉の分野にまわしていただきたい。そうすれば毎年行われる公共料金の値上げにみんな悲鳴を上げていますけれども、そうではなくて、買い物に出ることを控えている私たちは街にも出かけることができるようになり、賑わいをつくるような街ができるのではないのでしょうか。

また、市長は政令都市を目指すことを公言しています。水戸市の人口は合併を除けば横ばいもしくは減少でありまして、これら大ホールが有効活用される保証はありません。時の為政者の独断で、しかも借金で。ツケは現在私たちと次世代に平然と残す。こんな市政はまっぴらです。すでに破綻している「赤塚駅北口」、さらに「大工町1丁目地区」等の市街地開発事業への反省、総括もないままに、誰も責任をとらない。これはどういうことなのでしょう。

東町体育館にしろ、市立図書館の指定管理者への移管にせよ、市民の声に全く耳を傾けず背を向けて進められる現水戸市市政は、市長自ら述べている『「人口減少社会」の中で「効率的で暮らしやすく」「水戸ならではのコンパクトシティをめざしていく」ということとも大きく矛盾しています。現計画を白紙にもどし、市民が使いやすいコンパクトな市民会館を、市民とともに考え建設されるよう再考をもとめます。以上です。

で整備されております。これまでの一貫した運営によって高い評価を受けていることから、今後ともその存在が市民の誇りになり、さらに次の世代の市民へと引き継がれていくよう運営してまいります。

次に、赤塚駅北口地区および大工町1丁目地区における市街地再開発事業につきましては、商業・業務・住宅機能の集積と周辺道路の拡幅により、来訪者や居住人口、就業人口の増加と防災性の向上が図られ、中心市街地および赤塚駅周辺地区における人の交流や賑わい創出に貢献していると考えております。

新市民会館整備につきましては、本市の4つの大型プロジェクトとして事業費を明らかにしたうえで、これまでも市の考え方を市民の皆様を示してきました。これらのプロジェクトの完遂は、市民に対する公約であります。市としましては、これらを着実に実現しなければならないという市民からの付託を重く受け止めており、新市民会館の早期の整備を着実に進めてまいります

■公述人 5

公述意見の要旨	市の考え方
<p>私は、今回の新市民会館計画の白紙撤回と、そして、住民投票の実施を求める立場から意見を述べたいと思います。水戸市はですね、2014年度から始まる10か年計画の第6次総合計画では、新市民会館の建設計画は建設費で68億円ということが決められました。</p> <p>これは、地方自治法で、1969年に地方自治法が改正されて、市町村には10年間の長期計画を策定するということが義務付けられました。この義務付けに基づきまして、水戸市は全議員が参加する特別委員会というのが2012年12月に設置されて、9回審議されました。そして第6次総合計画が決められました。そして1万人の市民アンケートも行われて、それを参考に第6次総合計画が決められました。ところがですね、市長は、高橋市長は、この計画が始まる直前の2013年の12月議会で代表質問に対する答弁で、いきなりですね、市民会館は2,000名の大ホールを、施設全体では3,000名、3,000人規模のコンベンション機能をもって、泉町1丁目北地区に建設するといいました。そして、民間の再開発準備組合と協議しながらすすめていくというふうに答弁いたしました。これはですね、全く議員にも相談がありませんでした。</p> <p>すなわち、市長の一存で、それもですね、議会で決めたですね第6次総合計画に反するやり方ですね、民主主義を踏みにじってですね、行われたものでありましてこういう市長のやり方はですね、まさに市長の独断専行だということで許されないということだと思います。もしこういうことがね、行われたなら議会の意味が無くなってしまいうということでもあります。私はこれまでも市民の要望を実現するために実現を求めてきました。しかし、市長はですね、第6次総合計画に入っ</p>	<p>新市民会館につきましては、水戸芸術館との相乗効果による、芸術文化の拠点として、『みと』の魅力を発信するとともに、都市中枢機能の集積による、コンパクトシティの考え方にも合致し、飲食店、商業施設等との連携が図られ、偕楽園や弘道館等の観光資源への回遊性に優れており、中心市街地の魅力や活力を高めていくことで、「行ってみたい、住んでみたい」と思われるようなまちを目指すものとして、泉町1丁目北地区に整備するという判断をしたものです。</p> <p>また、平成25年12月定例会において、泉町1丁目北地区への立地判断を表明した後、市議会に新市民会館に関する特別委員会が設置され、十分な御審議をいただき、新市民会館の基本的な考え方、施設計画、敷地計画、概算事業費等を含めた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」を平成27年3月に策定したところであります。極めて民主的に議論を重ねた結果と考えております。</p> <p>あらためて、その経過を述べますが、第6次総合計画における市民会館整備事業費につきましては、仮に、旧市民会館の規模と同程度の施設を再築した場合における事業費として約68億円を見込んだものであります。</p> <p>平成26年2月3日の水戸市第6次総合計画基本構想審査特別委員会において、「新市民会館につきましては、議会において設置されました特別委員会の中の審議を踏まえまして、具体的な内容について十分整理をしてまいりたい。」と執行部説明をしております。</p> <p>また、平成26年2月19日の新市民会館に関する特別委員会において、「詳細については、基本計画の中で、施設の規模あるいは機能等を検討する中で、事業費についても精査をしていきたい。」と説明しております。</p>

ていないから、これは駄目なんだというふうに言ってきました、何回も。例えば老人福祉センターを水戸市内に2か所作ってほしいと、いうことも要望いたしました、しかしそれもですね、第6次総合計画では1か所しかないから2か所できないんだと、こう言っていたのに市長自らですね第6次総合計画を踏みにじってしまうということ言ってくる、こういうやり方はまさに市政の私物化、平気ですね長期計画を変えてしまうというやり方はまさに市政の私物化なのではないかと私は思います。

そして、二つ目はですね、この新市民会館の建設は300億円以上ということでありまして、これは先ほどの公述人の方も言っておりましたが、一般会計の年間予算の3分の1に匹敵すると、市民一人あたり11万円、4人家族ではですね44万円もの大変な負担であります。

水戸市の市債残高はですね2019年度がピークになってこれ四大プロジェクトもありまして、2,550億円ということで、過去最大の市債になってしまうということでありまして、市民一人あたりでは92万円ということでありまして、今後の返済の後年度負担ということが極めて大変になってしまっていて、福祉や暮らしの予算が大幅に圧迫されてしまうということが明らかだと思うのです。そして今、市民の中では、国保税が高い、高すぎて払えない人が1万4千人もいらっしゃる中で国保税を値下げしてほしい、という強い要望も出ているわけですね、こういうのにはですね、一切耳を傾けずにこういう大型開発に熱中するやり方は市民の願いに反したやり方ではないかというふうに私は思います。

次にですね、三番目に水戸市には県民文化センターがあります。1,500名のホールがあって450名のホールもありまして、全部で2,000名近いコンベンションができることになっているわけですね、ですからそういう点では、2,000名の新市民会館とは競合してしまっていて必要な

これらの議論を踏まえて、平成26年3月の第1回水戸市議会定例会で「水戸市第6次総合計画」が決定されたものであり、その後、約1年間、延べ12回にわたって開催された特別委員会において施設の規模、機能等を御審議いただき、2,000席の大ホールをはじめ、3,000人規模のコンベンションの開催が可能となる十分な広さと数を備えた展示室や会議室等を整備することを決定いたしました。

また、これまでも、各種団体へのヒアリング及び市民ワークショップを2年間で、あわせて28回実施したほか、市民アンケート、意見公募手続など、多様な手法によって市民の声を聴いてまいりました。今後も、より多くの市民参加により事業を進めてまいります。

次に、新市民会館の規模、機能につきましては、吹奏楽団体、合唱団体等からは、従来の公立施設では、楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、コンクールなどの大会を開催しにくいという御意見をいただいております。あわせて、市民アンケートでは、著名なアーティストの公演、全国ツアーが開催できる施設に対する要望も多くあることから、大規模施設だからこそできる各種イベントへの市民需要も高いと考えております。

また、需要調査につきましては、2,000席以上の大ホールに係る平成22年度の稼働率の全国平均値が68%であり、同じ条件における関東甲信越静地区の稼働率の平均値が70%であります。近隣の県庁所在地で2,000席のホールを有する施設がある前橋市及び宇都宮市の平成26年度稼働率については、ベイシア文化ホール（群馬県民会館）が61%、宇都宮市文化会館が73%となっております。これらを踏まえ、新市民会館の稼働率につきましては、70%を目指してまいりたいと考えております。

なお、大手興行主へのアンケート調査では、新市民会館で公演等をぜひ行いたい、条件が整えば行いたいといった前向きな回答が多く寄せられ、多くの方に利用していただくためにも、より良い施設の在り方を検

と思います。私は最近音楽関係の方と話をいたしました。2,000名のホールを作っても水戸ではホールをいっぱいにするのは年に1回くらいだろうと、ほとんどいっぱいにならないと、それよりも音楽関係の方、発表の方が求めているのは200名とか、300名だとか、そして1,000名程度ならば俳優さんの顔が見えて舞台と客が一体になってできるという、そういう1,000名規模のホールが欲しいという意見も出されました。そういう点ではですね、私はこういう2,000名のホールを作るよりも、当初水戸市で計画をしていた1,000名程度のホールをぜひ作っていただきたいと思います。もともと第6次総合計画では、新市民会館の計画にあたってはこれまでと同規模の市民会館を作るとして用地費も計上されております、68億円です、これはですね中越の地震で、新潟県の柏崎市の市民会館が壊れたんですね、2014年度4月にオープンいたしました。1,000名の規模を持つ市民会館ですが、そのときの建物の建設費は46億円でありました。これを参考にですね、土地代も計上して68億円となったわけですから、元の計画に戻して市民会館を作るべきなのではないかと、強く思っています。

それから四番目はですね、東町運動公園に県内最大規模の体育館が建設をされます。これは水戸市の議会で発表になりました。この東町新体育館建設計画というのは5,000名の収容人数を満たす観客席を設置するということから、この東町と市民会館というのは大体2キロしか離れていない、こういうところに市民会館で3,000名のコンベンションができる、3,700名のコンベンションができる新市民会館、そして東町の新体育館で5,000名と、こういうものは必要ないと思いますので、私はこの新市民会館の建設計画はやっぱりこれは白紙に戻して市民のみなさんの声を聞き取る、市民会館と東町の新体育館は2つは必要ないと思いますので、これは計画白紙決定すべきだと思います。

そして五つ目にですね、今回の建設計画は、一部の特定企業を優遇

討してまいります。

次に、東町運動公園との関連につきましては、新体育館のメインアリーナは、スポーツ活動を中心として使いやすい機能が整備されていることから、オーケストラの演奏会や活劇公演等を主目的とする新市民会館とは異なるものと考えております。

次に、民間企業への利益供与ではないかというご意見につきましては、補償金は、法律や制度に基づき、土地や建物の対価として客観的に評価し、公平公正に額が算出されるものです。

新市民会館整備につきましては、本市の4つの大型プロジェクトとして事業費を明らかにしたうえで、これまでも市の考え方を市民の皆様を示してきました。これらのプロジェクトの完遂は、市民に対する公約であります。市としましては、これらを着実に実現しなければならないという市民からの付託を重く受け止めており、新市民会館の早期の整備を着実に進めてまいります。

する再開発事業ではないかと思えます。伊勢甚を中心とした再開発が11年前に行われて水戸京成百貨店ができました。このとき68億円も補助を実施いたしました。そして今度はさらにですね、同じ伊勢甚が中心となった再開発準備組合で、市民会館の建設に300億円以上税金投入を行う。そして伊勢甚にはですね、30億円に近い、30億円を越す補償、そして解体費もでるということになりますので、こういう一部の特定企業を優遇するやり方はやめるべきではないかと思えます。

そして、六番目には莫大な税金を投入しながら、来年の4月から下水道料金の6.8%値上げする、今後3回も値上げするという市民を苦しめる市政は改めるべきだと思います。そして私は最後に、都市計画決定は中止するべきだと思います。都市計画決定には建設地域の中で反対してる、絶対に反対するものだと言ってきたものができなくなってしまうというもので、反対だと表明している方もおりますし、そして駐車場の建設でも、6階建ての駐車場ができたとしても排気ガスと日照権の侵害で根本が害されてしまうということで、市長に12月の11日に100名を越す駐車場建設反対の陳情書も出されておりますので、ぜひ私は都市計画決定は中止し、新市民会館の計画は白紙撤回と、住民投票の実施を求めていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

■公述人6

公述意見の要旨	市の考え方
<p>市民の会の事務局長を務めております。私は政府系金融機関に37年間勤務しておりましたので、色々な土地を見てきました。札幌にもいましたし、埼玉県朝霞市、さらには山形県の酒田市にもおりました。そういうなかから、この市民会館の問題を他市との比較でも色々考えるところがあるわけでありまして。それでは陳述を意見のペーパーにしたがって行いたいと思います。</p> <p>泉町1丁目北地区の市街地再開発は、次の理由から速やかに断念すべきであり、都市計画決定は行うべきでないと考えております。</p> <p>その主な理由は、次の通りです。</p> <p>一つは、泉町1丁目北地区から、わずか500mしか離れていない大工町1丁目再開発は、40億円の税金を投入しましたが、いまだにビルのテナントは埋まっていません。大工町再開発のコンセプトは「まちの活性化に資する拠点」となっていましたが、今回の泉町1丁目北地区の再開発も同じような理由を挙げています。大工町1丁目再開発について、反省と総括をまず行うべきではないかと考えるものであります。これがないというのが現状であります。</p> <p>二つ目は、さらに、この再開発事業は、新水戸市民会館の建設と一体となっており、その建設計画は、3,700人収容、21,800㎡という旧市民会館7,498㎡の約3倍という巨大なものであり、192億円の建設費となっております。さらに再開発事業費は103億円であり、駐車場建設費が20億円以上かかると見込まれるので、総額315億円以上の巨額の税金投入となります。国からの補助、これも国民の税金ですが、これが計66億円であり、水戸市の負担は249億円以上となり将来世代への負担が重くのしかかります。今後、資材の高騰や全体の経費の増加で</p>	<p>新市民会館につきましては、水戸芸術館との相乗効果による、芸術文化の拠点として、『みと』の魅力を発信するとともに、都市中枢機能の集積による、コンパクトシティの考え方にも合致し、飲食店、商業施設等との連携が図られ、偕楽園や弘道館等の観光資源への回遊性に優れており、中心市街地の魅力や活力を高めていくことで、「行ってみたい、住んでみたい」と思われるようなまちを目指すものとして、泉町1丁目北地区に整備するという判断をしたものです。</p> <p>また、平成25年12月定例会において、泉町1丁目北地区への立地判断を表明した後、市議会に新市民会館に関する特別委員会が設置され、十分な御審議をいただき、新市民会館の基本的な考え方、施設計画、敷地計画、概算事業費等を含めた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」を平成27年3月に策定したところであります。極めて民主的に議論を重ねた結果と考えております。</p> <p>あらためて、その経過を述べますが、第6次総合計画における市民会館整備事業費につきましては、仮に、旧市民会館の規模と同程度の施設を再築した場合における事業費として約68億円を見込んだものであります。</p> <p>平成26年2月3日の水戸市第6次総合計画基本構想審査特別委員会において、「新市民会館につきましては、議会において設置されました特別委員会の中の審議を踏まえまして、具体的な内容について十分整理をしてまいりたい。」と執行部説明をしております。</p> <p>また、平成26年2月19日の新市民会館に関する特別委員会において、「詳細については、基本計画の中で、施設の規模あるいは機能等を検討する中で、事業費についても精査をしていきたい。」と説明しております。</p>

さらに膨らんでいく可能性も十分に考えられます。

三つ目、市民生活が苦しくなっているなか、これだけの支出をすることはとても市民の理解・同意を得られるものではありません。

四つ目に、高橋市長が主導した水戸市の第6次総合計画、これは2014年3月に策定で4月から実行に移されておりますが、いまま前の公述人の方からお話があったように、新市民会館は68億円という数字が、この6水総では出されていきました。これが突然、4倍以上の金額になるのは、全くおかしいと考えます。しかも、自ら策定したこの計画の実施直前の2013年12月の市議会で、市長が「3,000人規模のコンベンション機能を持つ市民会館」「泉町1丁目北地区に立地する」などと答弁したことは、まったくもって不可解なことであり、利権が働いたとしか考えられません。また、他の候補地についてどのような検討が行われたのかも不明であります。

五つ目、市長は「市民の声を聞く」と言いながら、第6次総合計画の策定に際して行った「市民1万人アンケート」、これが当時の資料ですが、市長もはっきりと述べています、市民1万人アンケートに基づいて、この6水総も策定したというのなら、今回の計画に関しては、今年9月から10月に実施したアンケートへの回答は、わずか331人であり、わずか有権者の0.15%にしかすぎない状況であります。

六つ目に、市民からは、この計画に対して批判的な意見や声が相次いでいます。「人口減少の時代に合わないし、利用価値は少ない。大きなハコモノをつくって人を呼ぶなんて幻想に過ぎない。利権があると思われる」「芸術館があるのにさらに隣接して巨大な会館をつくる必要はない。芸術館の活用を市民に開かれたものにすべきだ」「著名なアーティストの公演をやろうとするのなら、今計画されている東町体育館でやるほうがよい。2,000名の大ホールは無用の長物になる」「大きな市民会館を作るのではなく、こどもたちが使う市民プールや児童館こ

これらの議論を踏まえて、平成26年3月の第1回水戸市議会定例会で「水戸市第6次総合計画」が決定されたものであり、その後、約1年間、延べ12回にわたって開催された特別委員会において施設の規模、機能等を御審議いただき、2,000席の大ホールをはじめ、3,000人規模のコンベンションの開催が可能となる十分な広さと数を備えた展示室や会議室等を整備することを決定いたしました。

また、これまでも、各種団体へのヒアリング及び市民ワークショップを2年間で、あわせて28回実施したほか、市民アンケート、意見公募手続きなど、多様な手法によって市民の声を聴いてまいりました。今後も、より多くの市民参加により事業を進めてまいります。

次に、大工町1丁目地区における市街地再開発事業につきましては、ホテル・業務・住宅機能の集積と周辺道路の拡幅により、来訪者や居住人口、就業人口の増加と防災性の向上が図られ、中心市街地における人の交流や賑わい創出に貢献していると考えております。

新市民会館整備につきましては、本市の4つの大型プロジェクトとして事業費を明らかにしたうえで、これまでも市の考え方を市民の皆様を示してきました。これらのプロジェクトの完遂は、市民に対する公約であります。市としましては、これらを着実に実現しなければならないという市民からの付託を重く受け止めており、新市民会館の早期の整備を着実に進めてまいります。

そ作ってほしい」「作った後の運営維持費や駐車場のことを考えると、この計画は無謀です。とにかく白紙に戻して市民の意見をもっと聞いてほしい」などなど、今挙げたのはほんの1例であります。

次のような手紙も寄せられています。「チラシを拝見し遅まきながら良識をお持ちの水戸市民のいらっしゃる事に安堵し賛成いたします。私は水戸生まれの85歳、この地を離れたことの全くない水戸っぼ。昭和20年代に創業し、50年間営業。戦後の復興の力強い気概を持って商店街も次々と新しいことに挑戦して盛り上げましたが、大型店の出店でどんどん追い込まれて閉店しました。今の町並みは駐車場通りと化してしまい、町の活性化を目指すために市民会館の計画がされたようですが、これからの人口の推移も考えて、多額の金額が後々の負担となることは見え見えですので、反対の声がこれまで表に出てこないのは不思議なくらいです。夫も私以上の水戸っぼで、この状況を知ったら憤慨していたことでしょう。

生前、茨城大学に医学部がないから県庁跡に作れば水戸の街も発展するだろうと言っておりました。私も戦前の茨城会館には、数々の思い出があり、小学校の時のラジオ体操記念発表会、谷桃子バレー発表会などが今でも思い出されます。あのお濠と桜や自然に恵まれた、落ち着いた良い環境のなか、すべてに見合った背伸びをしない文化の建物であってほしいと思います。どうして大きいだけが良いと考えるのでしょうか。私のようなものでも不思議です。何かそこに裏があるのでしょうか。私は一人暮らしの高齢で行動はできませんが、心の応援は致します。皆様の心意気に賛同いたします」というような手紙も寄せられています。

私たちは一つの具体例として旧県庁の跡地にある旧県庁舎と図書館の間の隣接地、ここに市民会館をつくれば60億円程度で出来ると、これは一つの提案、たたき台ですので、かたまっただけではありません

が、一つの提案をしているところであります。

最後に、私が事務局長をしている市民の会は、12月6日160名の市民の参加で結成しました。いま述べたように多くの市民から今回の計画に対する様々な意見や声が寄せられています。今、話題となっている新国立競技場でも2012年11月の事業主体の決定から2年半、巨額、巨大との批判が出て今年7月、安倍首相が白紙撤回を表明しました。そして12月22日、総事業費1,490億円の計画が決定したことは、報道されているとおりであります。

都市計画決定をしていない今なら、十分に間に合います。1月中旬までに「白紙撤回」の決断をすることを強く訴えて、公述といたします。以上です。

■公述人7

公述意見の要旨	市の考え方
<p>まず再開発事業について意見を述べます。</p> <p>この泉町1丁目再開発事業の最大の地権者は㈱伊勢甚であります。京成百貨店を建設した泉町1丁目南地区の再開発でも最大の地権者は伊勢甚であり、約68億円の税金投入が行われました。今回の北地区の再開発でも伊勢甚にビルの解体も含め、43億円の税金投入が行われようとしています。また、再開発準備組合の役員に地権者でもない京成百貨店の代表取締役が入っていますが、この事業が特定企業の優先で進められるという危惧を多くの市民が持っています。</p> <p>志村病院の移転補償金を、市長による単独決裁で5月19日に、日本たばこ産業と契約を行い、土地開発基金から支出しました。再開発事業地内にある志村病院への補償は当然都市計画の決定を行ってから、再開発事業費から支出するのが筋であります。まさに市長独断専行の公金の支出であり、とうてい市民の納得は得られません。</p> <p>次に、2,000席の大ホールを持つ3,700人規模の市民会館計画に対する意見を述べます。</p> <p>12月の水戸市議会で土田きよみ議員の代表質問への答弁で、市長は「全国的にも1,800席以上のホールを持たない県は、本県を含めて7県である」と答弁しました。つくば市にある「つくば国際交流会館」には2,734席のホールがあります。東京から直通でくることができつくば市にあるホールですが稼働率は50.8%です。年間運営経費は約5億円とのことです。水戸市が計画している市民会館の維持費は3億円以上になると予測されています。水戸市にある県民文化センターは1,514席ですが、稼働率は67%、1日平均1,031人の利用です。水戸市民会館は過去の平均稼働率が61%、1日600人の利用でした。</p>	<p>新市民会館につきましては、水戸芸術館との相乗効果による、芸術文化の拠点として、『みと』の魅力を発信するとともに、都市中枢機能の集積による、コンパクトシティの考え方にも合致し、飲食店、商業施設等との連携が図られ、偕楽園や弘道館等の観光資源への回遊性に優れており、中心市街地の魅力や活力を高めていくことで、「行ってみたい、住んでみたい」と思われるようなまちを目指すものとして、泉町1丁目北地区に整備するという判断をしたものです。</p> <p>また、平成25年12月定例会において、泉町1丁目北地区への立地判断を表明した後、市議会に新市民会館に関する特別委員会が設置され、十分な御審議をいただき、新市民会館の基本的な考え方、施設計画、敷地計画、概算事業費等を含めた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」を平成27年3月に策定したところであります。極めて民主的に議論を重ねた結果と考えております。</p> <p>あらためて、その経過を述べますが、第6次総合計画における市民会館整備事業費につきましては、仮に、旧市民会館の規模と同程度の施設を再築した場合における事業費として約68億円を見込んだものであります。</p> <p>平成26年2月3日の水戸市第6次総合計画基本構想審査特別委員会において、「新市民会館につきましては、議会において設置されました特別委員会の中の審議を踏まえまして、具体的な内容について十分整理をしてまいりたい。」と執行部説明をしております。</p> <p>また、平成26年2月19日の新市民会館に関する特別委員会において、「詳細については、基本計画の中で、施設の規模あるいは機能等を検討する中で、事業費についても精査をしていきたい。」と説明しております。</p>

市長は全国大会や著名アーティストのコンサートやイベントを誘致するためにも 2,000 席のホールが必要と言っていますが、年に 1 回あるかないかの利用のための巨大ホールは莫大な建設費からみても、高い維持費からみても作るべきではありません。

水戸市が昨年 8 月にインターネットを使って行ったアンケート調査では、502 名の回答があり、その回答の中で多かったのは、「財政負担が大きくならないように、十分考慮の上、身の丈に合った適切な施設にしてほしい」「駐車場計画、交通計画も十分に行ってほしい」という意見でした。東京にある全国公立文化施設協会は、バブル期に作った 2,000 席規模の施設は、どこも苦戦し、運営費や修繕費など多額の維持コストがまかなえず、閉館の危機にある現状を語っています。

次に、駐車場についてですが、3,700 人規模の市民会館計画でありながら、駐車場は 300 台の計画です。しかも隣接している道路 2 本のうち 1 本が一方通行であり、駐車場に入庫するだけで渋滞が予想されます。終演後の一斉に出庫する時の渋滞を想像するだけで恐ろしくなります。300 台では足りず、周辺の有料駐車場を探し回ることになり、要する時間もどのくらいになるのでしょうか。見越して早く来ても開演に間に合わない事態も起こり得ます、市民が気持ちよく利用することになりません。

再開発事業の目標として「偕楽園や弘道館など、歴史的文化的資源を有効活用しながら、街なかの回遊性を高める」とうたっていますが、同様に回遊性をうたった南地区開発では、京成百貨店のみが収益を上げ、周辺商店に人は流れず、空き店舗や空きビルが年々増加しています。大工町再開発でも、偕楽園と中心商店街との回遊性を謳われ実行されましたが、トモスビルのテナントが埋まらない状態が続いています。

地方自治体の最大の責任は、住民の健康と暮らしを守ることにある

これらの議論を踏まえて、平成 26 年 3 月の第 1 回水戸市議会定例会で「水戸市第 6 次総合計画」が決定されたものであり、その後、約 1 年間、延べ 12 回にわたって開催された特別委員会において施設の規模、機能等を御審議いただき、2,000 席の大ホールをはじめ、3,000 人規模のコンベンションの開催が可能となる十分な広さと数を備えた展示室や会議室等を整備することを決定いたしました。

また、これまでも、各種団体へのヒアリング及び市民ワークショップを 2 年間で、あわせて 28 回実施したほか、市民アンケート、意見公募手続きなど、多様な手法によって市民の声を聴いてまいりました。今後も、より多くの市民参加により事業を進めてまいります。

次に、民間企業への利益供与ではないかというご意見につきましては、補償金は、法律や制度に基づき、土地売却や建物の権利放棄の対価として客観的に評価し、公平公正に額が算出されるものです。

次に、事業計画地区内の病院の代替地先行取得につきましては、市街地再開発事業を推進すべき立場の市として必要な協力を行ってきたものであり、詳細につきましては、平成 28 年 1 月 27 日開催の特別委員会において説明をしております。

次に、需要調査につきましては、2,000 席以上の大ホールに係る平成 22 年度の稼働率の全国平均値が 68%であり、同じ条件における関東甲信越静地区の稼働率の平均値が 70%であります。近隣の県庁所在地で 2,000 席のホールを有する施設がある前橋市及び宇都宮市の平成 26 年度稼働率については、ベイシア文化ホール（群馬県民会館）が 61%、宇都宮市文化会館が 73%となっております。これらを踏まえ、新市民会館の稼働率につきましては、70%を目指してまいりたいと考えております。

新市民会館の規模、機能につきましては、吹奏楽団体、合唱団体等からは、従来の公立施設では、楽屋やリハーサル室など、機能が充実していないため、コンクールなどの大会を開催しにくいという御意見をいた

ます。厚生労働省が先日「相対的貧困率」が過去最悪になったと発表しました。貧困率悪化の要因は、若い母子家庭や65歳以上の高齢世帯の生活苦であるという数値を示しています。また、預貯金がゼロの世帯が4割になっているとのこと。水戸市民の状態も同様なのではないのでしょうか。

水戸市では公共料金の値上げが続き、市民の中に将来の不安がおおきく広がっています。300億円以上かけて再開発事業を行い、大きな市民会館を建設するのではなく、第6次総合計画で計画した68億円で、市民が使いやすい、年間維持費も安く済む、市民に愛される市民会館こそつくるべきです。そのためにも計画を白紙に戻し、市民の声を聴き、市民参加で建設を進めていくべきであります。

今日はクリスマス・イブです、子どもさんやお孫さんと楽しく過ごす計画をお持ちの方もいらっしゃると思います。このような日に公聴会を行うことを決めたこと自体、市民への暖かい配慮がないと言えるのではないのでしょうか。

職員の中にも、子どもさんとの約束がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このことを申し述べて私の意見陳述を終わります。

だいております。あわせて、市民アンケートでは、著名なアーティストの公演、全国ツアーが開催できる施設に対する要望も多くあることから、大規模施設だからこそできる各種イベントへの市民需要も高いと考えております。

また、大手興行主へのアンケート調査では、新市民会館で公演等をぜひ行いたい、条件が整えば行いたいといった前向きな回答が多く寄せられ、多くの方に利用していただくためにも、より良い施設の在り方を検討してまいります。

新市民会館整備に関する経費につきましては、施設建築物の設計の進捗により、施設規模・機能等に応じた施設利用料の見積りが可能となることから、同規模施設の事業収入、職員の人件費、光熱水費、施設設備管理費等を参考に、今後、収支のバランスを意識した維持管理費（ランニングコスト）について検討し、市民サービスの低下を招くことがないよう、そして、将来世代に過大な負担を先送りすることがないよう、努めてまいります。

次に、駐車場へ進入する車両による交通渋滞の懸念につきましては、当該地周辺での現況交通量の実態調査を踏まえた検証において、健全な範囲内となることを確認しております。駐車場の整備台数をはじめ、具体的には交通渋滞等の影響がないよう道路管理者、交通管理者と十分に協議・調整をしながら検討してまいります。あわせて、公共交通の利用促進や案内板等による適切な交通誘導等のソフト対策も検討してまいります。

泉町1丁目南地区および大工町1丁目地区における市街地再開発事業につきましては、商業・業務・住宅等の機能の集積と周辺道路の拡幅により、来訪者や居住人口、就業人口の増加と防災性の向上が図られ、中心市街地における人の交流や賑わい創出に貢献していると考えております。

	<p>新市民会館整備につきましては、本市の4つの大型プロジェクトとして事業費を明らかにしたうえで、これまでも市の考え方を市民の皆様を示してきました。これらのプロジェクトの完遂は、市民に対する公約であります。市としましては、これらを着実に実現しなければならないという市民からの付託を重く受け止めており、新市民会館の早期の整備を着実に進めてまいります。</p>
--	--